平成29年度　横浜市立宮谷小学校　学校だより　11月号

みやがや

いじめは絶対許さない

校長　奈良輪孝雄

新聞に40代の女性の投稿がありました。

> 買い物で通りを歩いているとこのような光景に出合いました。小学生の女の子同士がすれ違う時、一方の女の子が「死ね。」と言ったんです。するともう一方の女の子は「ぶっ殺すぞ。」と言ったんです。どうなっているのでしょうか。同じ日に公園の前を通っていると、男の子が友達に、「道草せずにまっすぐ帰ろよ。」と言うと、「てめえに言われる筋合いはねえ。」どうなっているのでしょう。　※一部改

「死ね」という言葉に私は強い憤りを感じます。大人であろうと子どもであろうと絶対に使ってはならない言葉です。その言葉の意味を想像することができないのでしょうか。もしそれが現実に起こったら・・・。言った子は、「軽い気持ちで言った。」「そんな深くは考えていなかった。」と言うことでしょう。ふざけないでほしい。

暴力を伴ういじめは顕在化しやすく、いじめをした方も罪悪感をもつことが容易に考えられます。しかし、無視・仲間外れ・悪口・陰口・冷やかし・からかい・金銭強要など暴力の伴わないいじめは、遊びの延長との境界線が不明瞭であり、いじめをやった子も罪悪感をもちにくい傾向があります。しかし、これもいじめです。絶対に許さない。

国籍、性別、障害の有無など本人の責任が全く及ばないことに関して差別されることはあってはならないのです。これからの世の中は、全ての人がお互いの人権や尊厳を大切に支え合い、誰もが生き生きとした人生を享受することができる共生社会になっていくことは間違いありません。その共生社会を創りだしていくのは今の子どもたちなのです。

学校では、いじめと思われることが起きた場合は、すぐに情報を共有しチームで対応します。事実を丁寧に確認し、内容に応じて校長は「いじめ防止対策委員会」を開催し、情報の共有と対応を決めていきます。いかなる時も、「被害を受けた子を絶対に守り抜く」ということを貫き通します。いじめは、どの学校でも起こりえます。いじめが起きたときにいかに迅速に素早く対応し、再発防止策を徹底していくことを大切にしています。宮谷小学校では、いじめを絶対に許しません。

宮谷小学校は、「いじめのない学校」をゴールとはしていません。その先を目指しています。「互いの人権を尊重し、心豊かな児童を育成する」ことです。そのためには、「規律・学力・自己有用感」の３つが重要であると考えます。きちんと授業に参加し、基礎的な学力を身に付け、認められているという実感をもった子であれば、いたずらにいじめの加害に向かうことはないと思います。しかし、誰でもどの子も被害者になることもあり得るし、加害者になることもあり得ます。また、傍観者になる可能性もあると思います。その時は、冷静に、学校と家庭が同じ方向を向いてより良い子どもの成長につなげる指導をしていきましょう。

もし、今誰かをいじめていたならば、やめる勇気をもとう。いじめは絶対に許されない。

もし、今誰かにいじめられていたなら、「やめて。」という勇気をもとう。そして、誰でもいいので大人に相談しよう。その大人は、絶対にあなたを助けてくれます。

もし、誰かがいじめているところを見たら、「やめよう。」という勇気をもとう。

いじめ根絶、そしてその先の人格形成を目指し、よりよい教育をすすめていきます。

今月もよろしくお願い申し上げます。